

ホストファミリーと高校生

ホストファミリー募集中!

飯南高校には、今年度も県外からの入生がいます。その高校生たちは授業や部活動の毎日を送り、生活も学校と月根尾寮が中心となっています。高校3年間でこの2つの場所だけで過ごすだけでなく、地域に飛び出すことが、成長につながります。

ホストファミリーとして、高校生と地域の交流の懸け橋となり、高校生の挑戦を支えてくださるホストファミリーを募集しています。1年生は9月を目処に、ホストファミリーとの交流を開始する予定です。

ホストファミリーの概要

飯南高校魅力化を推進する「飯南キラリ!ドリームアップ推進協議会」が平成28年度に開始。県外から飯南高校に入学した生徒のサポートや地域交流を推進するための制度

- ホストファミリー1世帯に原則2人の生徒
- 生徒の身元引受け(病気のときの引き取りなど)ではなく、地域交流を図るための取組
- 受入はボランティアとなります
- 活動保険は町で加入

ホストファミリーにお願いしていること

次の例のように、可能な範囲での交流をお願いしています。

■地域活動での交流

公民館活動(町民運動会、文化祭など)、地域行事(はやしこ、収穫祭、夏祭りなど)などに招き、地域の皆さんとの交流を促進

■学校行事の見学や行事での応援

公開授業週間(授業見学)、文化祭・体育祭など学校行事を見学するなどして、県外生の応援

■家庭に招いての交流

田植え、稲刈りといった農作業の手伝いなど、アットホームな雰囲気の中で飯南町の生活を体感する機会を創出

問合せ・申込み

飯南キラリ!ドリームアップ推進協議会事務局

- 役場まちづくり推進課 担当:吾郷・三島
- ☎76-2864



種をまく前に、もう一度確認。
「1つの穴に種は2つ」種を入れたら、土をかぶせませ

人の中條屋健さん(3年生・愛知県出身)を誘いました。これまで何度か、中條屋さんを地域の行事に誘い、地域での交流を行ってきました。

地域での交流を楽しんでいる中條屋さん。「高校生になったら愛知県での高校生活では、できないことに挑戦したかった」と話します。この想いは松田さんに伝わり、はやしこや田植え、稲刈りなど、松田さんに誘われて、多くの体験をしました。

一歩踏み出し、地域に飛び出したことで、新たな気持ちで芽生えた中條屋さん。「松田さんや地域の人と交流するなかで、ま

高校卒業後もこのまちに

卒業してからも農業の手伝いや遊びに来たい」と話します。中條屋さんの背中を押してきた松田さんの想いも同じです。「将来、飯南町に帰ってきてくれなくても、顔を出してくれたらうれしい。飯南町を第二のふるさとだと思ってもらえれば」と話します。これからも高校生の挑戦を支えていきたいそうです。



昨年、はやしこに参加した中條屋さん(写真中央)。「地域の方とも交流できました」と話します



地域の大人も高校生も自己紹介。今日の作業の流れを確認



参加した生徒と松田さん
(左から三木さん、西村さん、松田さん、中條屋さん)

飯南高校と
ともに

このまちを第二のふるさとに

県外から入学し、親元を離れ寮生活を送る飯南高校生。その県外生がホストファミリー(まち親)や町民の皆さんと農作業に汗を流しました

農作業で交流を

上来島横路地区の畑に集まった「小田真木みんなでやろう会」のメンバーと県外出身の高校生。夏の収穫に向けて、トウモロコシの種まきを行います。先ずは全員自己紹介。高校生は名前と出身地を話します。自己紹介後、段取りを聞いて作業開始。畝に張ってあるマルチシートに、種を植える目安となる小さな穴を等間隔に開けた後、その穴をガスバーナーで大きくします。

「僕もやってみたい」と高校生。教えてもらいながら、リズムよく穴を大きくしていきます。「上手にやるのう」と声を掛けられ、照れながら作業を進めていきます。小田真木みんなでやろう会の皆さんは、作業をしながら高校生に話しかけます。「なんで飯南高校に来たの?」「部活は何をしてるん?」

高校生に思い出を

種まき後、畑の近くで湧いている水を飲み、談笑する高校生。その姿を少し離れて見守る松田さん(小田)。高校生のホストファミリー(まち親)をしています。松田さんは、飯南高校に入学した県外生のホストファミリーとして、平成29年度から現在まで7人の生徒を受け入れ、現在も2人を受け入れています。

もともとホストファミリーになる以前から、高校の寮が閉寮する休日に生徒を受け入れていた松田さん。ホストファミリーの話や打診された際も、高校生のためなら引き受けることにしたのでそう。「高校生に飯南町での思い出を作ってほしい」という思いからでした。

「今日は、中條屋くんが友達を連れてきてくれたから、人数も多くて作業が早く終わったよ」と話す松田さん。今回の種まきに、受け入れている高校生の1

腰が痛くなるほど頑張った